

【タイガー魔法瓶「電気ケトルに関する意識調査」】**電気ケトルの新安全基準に転倒流水試験が追加。認知率は3割未満。****電気ケトル使用時のNG行為をしている”やけど予備軍”は半数以上が該当する結果に。**

専門家、「電気ケトルの決まった置き場所がないこと」が危険信号であると指摘。
やけど事故を防ぐために「転倒時のお湯もれ防止※1」機能搭載の電気ケトルの使用推奨。

熱制御テクノロジーで世界をリードし、安全性重視の電気ケトルの開発に取り組んできたタイガー魔法瓶株式会社(社長:菊池嘉聡、本社:大阪府門真市)は、未就学児6歳以下の子どもをもつ30~40代の男女638人を対象に、電気ケトルに関する意識調査を実施しました。

電気ケトルの普及に伴い、小さな子どものやけど事故が問題視されるようになり、2021年に『電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈についての一部を改正する通達』により、転倒流水試験(転倒した際のお湯の流出量が50mL以下であること)が追加されました。この基準※2に準拠する電気ケトルは、2024年8月以降、同基準の転倒流水試験条件を満たさないと製品の製造・輸入ができなくなります。※2 J60335-2-15(2021)

本プレスリリースでは、意識調査の結果から、電気ケトルによるやけどを防ぐために注意すべきポイントと、発売当時から「蒸気がでない/蒸気が少ない」「倒れた際にお湯がこぼれにくい※1」といった安心安全への工夫を重ね、全製品で転倒お湯もれ防止構造を採用しているタイガー魔法瓶の電気ケトルをご紹介します。

※1 給湯ロックボタンがロック状態になっていても、本体を傾けたり倒すと注ぎ口からお湯が流れてやけどのおそれがあります。

◎調査サマリー

- やけどのヒヤリハット経験がある人のうち、原因が「電気ケトル」だった人は約3割も。
- 電気ケトルで子どもがやけどをしそうになった経験がある人のうち、約半数は電気ケトルの転倒が原因。
- お湯が沸いた後「電気ケトルの置き場所が定位置から変わる」と回答した、“やけど予備軍”は半数以上。
- 9割以上が子どもの家庭内でのやけどに普段から心がけているにもかかわらず
実際に使っている電気ケトルに搭載されている安全機能は「全く把握していない」人が最多。
転倒お湯もれ防止対策を搭載している電気ケトル使用者は22.9%のみ。

◎専門家コメント (抜粋)

～子どもの事故防止の第一人者、小児科医の緑園こどもクリニック院長山中龍宏先生より～

- ・お湯もれ防止機能が付いていない電気ケトルは、**重度のやけどを負いやすい**。
- ・電気ケトルでやけどの危険性が高くなる要因は「**電気ケトルの決まった置き場所がないこと**」と指摘。
その理由は「**意識せず、子どもの手の届く場所に置いてしまうため**」
- ・1歳前後の乳幼児の3人に1人はやけどの経験があり、電気ケトルによるやけどが多発している。
- ・「**熱湯が漏れ出て大やけどをするのを防ぐため、安全対策の施された電気ケトルを使用してほしい**」と呼びかけ。

【調査概要】

調査対象：未就学児6歳以下の子どもがいる全国の30歳~40歳の男女638人

調査方法：株式会社ジャストシステム「Fastask (ファスタスク)」を用いたインターネットリサーチ

調査期間：2024年4月30日(火)~5月6日(月)

※結果数値は小数点以下を適宜四捨五入して表示しているため、積み上げ計算すると誤差がでる場合があります。

※調査結果をご紹介いただく際は【タイガー魔法瓶「電気ケトルの新安全基準に関する意識調査」より引用】と注釈をご記載ください。

・自身の子どもに対して、日常生活でヒヤリハットした経験がある人は94.3%。
そのうち、やけどのヒヤリハット経験がある人は7割以上。またその原因が「電気ケトル」だった人は約3割も。

・自身の子どもに対して、ひやとした経験（ヒヤリハット経験）がある方は**94.3%**。そのうち、やけどのヒヤリハット経験がある方は、**70.4%**にのびりました。

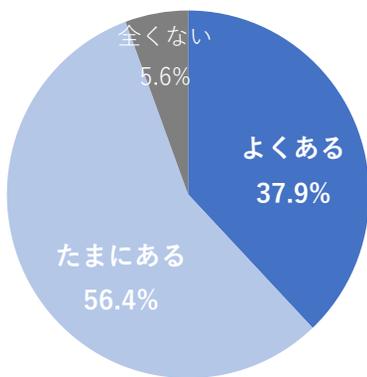
・乳幼児の子どもが、やけどをしないよう普段から心がけている人は**93.1%**という結果に。

・やけどのヒヤリハット経験エピソード第一位「熱くなった調理器具に触れそうになった/触れてしまった」は、半数以上が経験があると回答。続いて第二位は「炊飯器の蒸気に触れそうになった/触れてしまった」、第三位は「電気ケトルを触りそうになった/倒しそうになった/倒れてしまった」となりました。

・やけどのヒヤリハット経験がある人のうち、その原因が「電気ケトル」だった人は**29.0%**にのびりました。

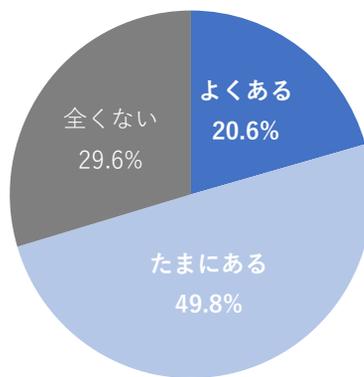
Q.日常生活で、乳幼児のお子様に対して「ヒヤッとした」経験はありますか？

(n=638/単一回答)



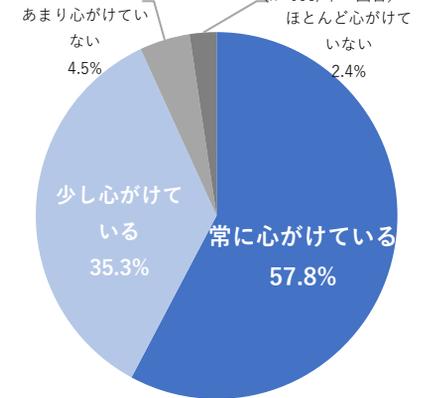
Q. やけどで「ヒヤッとした」経験はありますか。

(n=日常生活で乳幼児のお子様「ヒヤッとした経験」がある 602/単一回答)



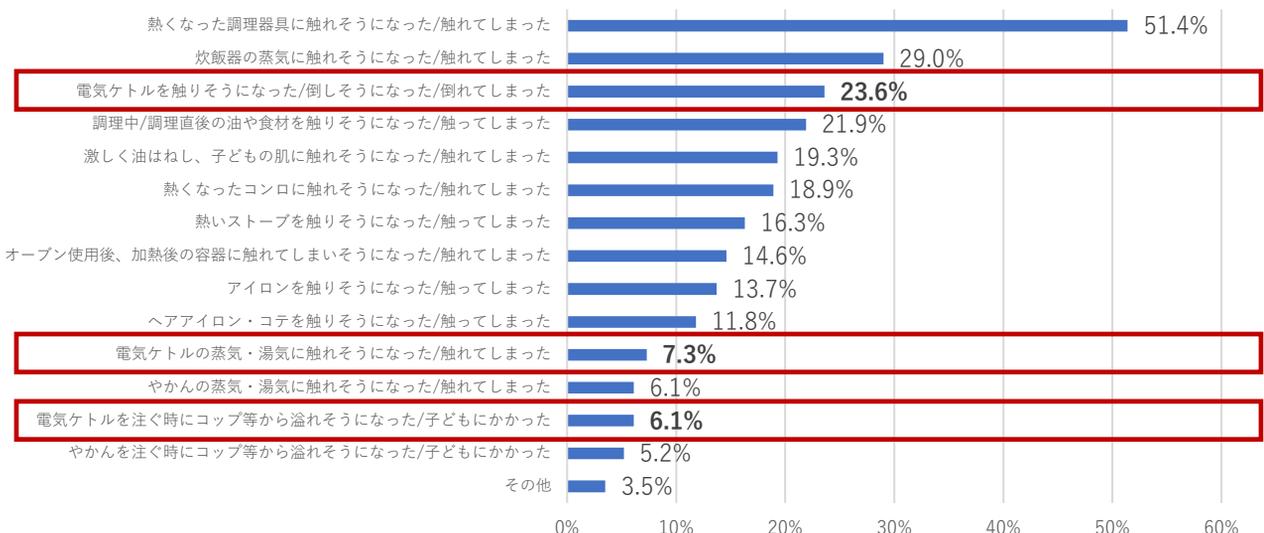
Q.乳幼児のお子様家庭内でやけどをしないよう、普段から心がけていますか。

(n=638/単一回答)



Q.乳幼児のお子様のご家庭内での「やけど」に関して、「ヒヤッとした経験」のエピソードを教えてください。

(n=乳幼児のお子様に対して、家庭内でやけどで「ヒヤッとした」経験がある 424/複数回答)



電気ケトルでヒヤリハットした経験がある人は約3割（29.0%）も
(赤枠で囲った項目を1つ以上選択した人の割合)

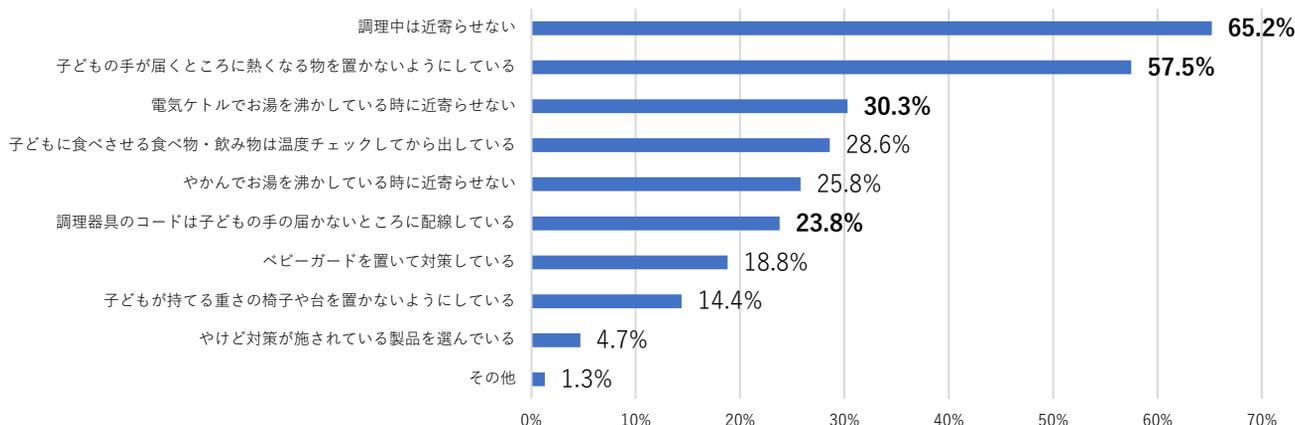
・子どもがやけどしないように気をつけていること第一位は「調理中は近寄らせない」

・子どもがやけどしないように気をつけていること第一位は「調理中は近寄らせない」こと。その数は**65.2%**にのびりました。第二位は「子どもの手が届くところに熱くなる物を置かないようにしている」で、**57.5%**が該当。そして第三位は「電気ケトルでお湯を沸かしている時に近寄らせない」だったものの、該当者は**約3割**にとどまりました。

・また電気ケトルによるやけどのきっかけにもなりやすい「調理器具のコードは、子どもの手の届かないところに配線している」について実践している人は、**23.8%**にとどまりました。

Q.ご家庭内で、乳幼児のお子様はやけどしないように気をつけていることを教えてください。

(n=乳幼児のお子様をご家庭内でやけどをしないよう、少なからず心がけている 623/複数回答)



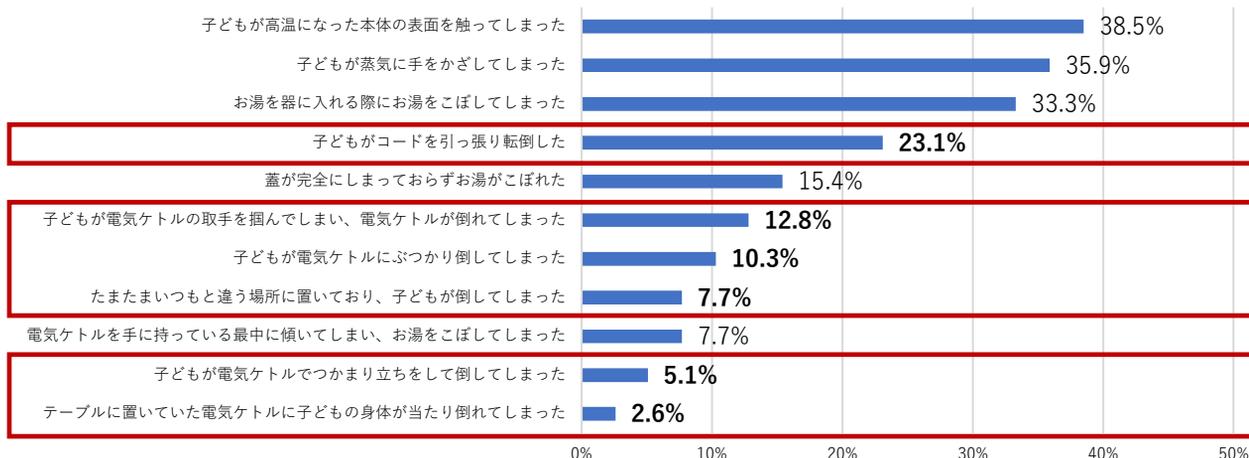
・電気ケトルで子どもがやけどをしそうになった経験がある人のうち、原因が電気ケトルの「転倒」だった人は約半数にのびた。

・当時のエピソードについて伺ったところ、第一位「子どもが高温になった本体の表面を触ってしまった」、第二位は「子どもが蒸気に手をかざしてしまった」、第三位「お湯を器に入れる際にお湯をこぼしてしまった」となりました。

・電気ケトルの「転倒」によって、やけどをしそうになった経験のある方はなんと**48.7%**にのびました。

Q.電気ケトルの使用時に、やけどにはいかなかったものの“危なかった経験”について、当時のエピソードを教えてください。

(n=乳幼児のお子様、電気ケトルでやけどをしそうになった経験がある 39 /複数回答)



電気ケトルの「転倒」で、子どもがやけどをしそうになった経験がある人は**48.7%**も

(赤枠で囲った項目を1つ以上選択した人の割合)

・電気ケトルで子どもがやけどをしそうになった経験がある方の43.6%は「子どもの手の届かない場所」に電気ケトルを設置。子どもの手の届かない位置に置いていても、やけどが起きる理由とは？
～「電気ケトルの決まった置き場所がない」のはNG行為。半数以上は”やけど予備軍”という結果に～

・子どもがやけどをしそうになった経験がある方に「当時の電気ケトルの置き場所」について尋ねると、**43.6%**は「子どもが手の届かない場所」に設置していたことが判明。4割以上が「子どもの手の届かない位置」に置いていたにもかかわらず、やけどのヒヤリハット経験がありました。

・子どもの手の届かない位置に電気ケトルを置いていたにもかかわらず、やけどの危険があった理由を山中先生に伺った結果、**電気ケトルを使用する際のNG行為は「電気ケトルの決まった置き場所がないこと（電気ケトルの定位置が度々変わる）」**だということがわかりました。「子どもの手の届かない位置」に置いていても、**使用中に一時的に置き位置を変えたタイミングでやけどするケースが大半**だといえます。

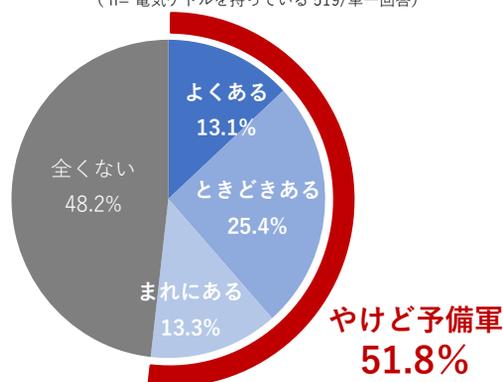
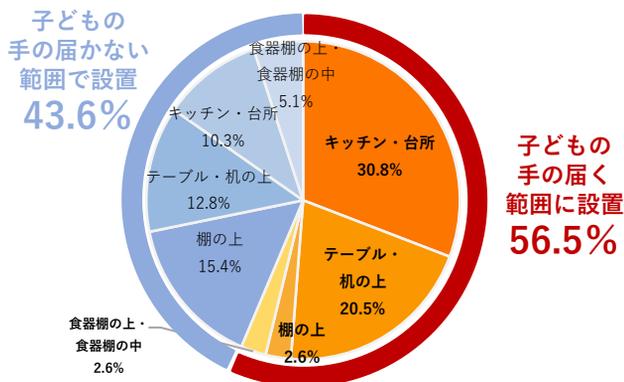
・以上を踏まえ、お湯が沸いた後「電気ケトルの置き場所が定位置から変わる」ことがある人を調査した結果、なんと**51.8%**が該当する結果に。半数以上が”やけど予備軍”であることが判明しました。

Q.当時、電気ケトルをどこに置いていましたか。

(n=乳幼児のお子様、電気ケトルでやけどをしそうになった経験がある 39/単一回答)

Q.お湯が沸いた後、電気ケトルの置き場所が定位置から変わることはありますか。

(n=電気ケトルを持っている 519/単一回答)



実際に使っている電気ケトルに搭載されている安全機能について

「全く把握していない」人が最多。転倒お湯もれ防止は22.9%のみ。

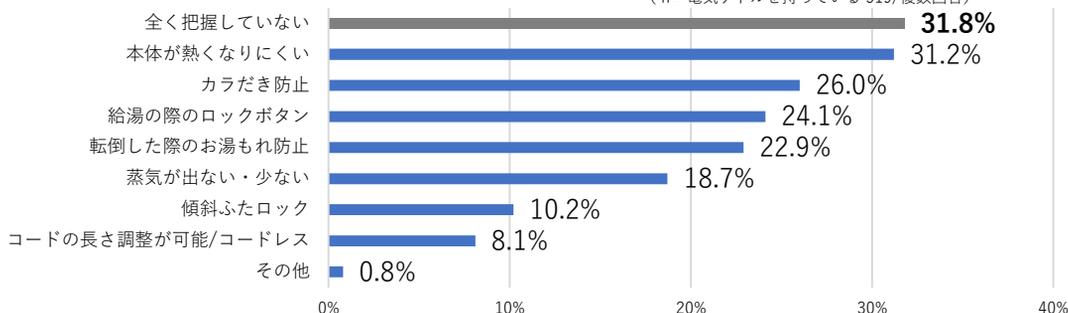
・自宅の電気ケトルに搭載されている安全機能について伺ったところ、全く把握していない人が最も多く、その数は**31.8%**にのびりました。

・電気ケトルでやけどする主な要因について着目すると、「転倒お湯もれ防止」が搭載された商品を選んでいる人は**22.9%**のみ。続いて「本体が熱くなりにくい」機能は**31.2%**、「蒸気が出ない・少ない」機能は**18.7%のみ**という結果に。

・電気ケトルの安全対策については、関心が低い傾向があることが浮き彫りとなりました。

Q.実際に使っている電気ケトルに搭載されている安全機能を教えてください。

(n=電気ケトルを持っている 519/複数回答)

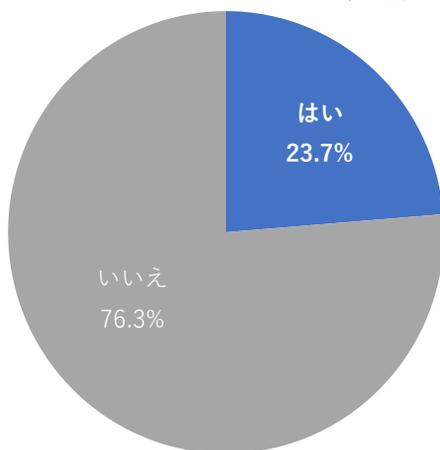


「電気ケトルの新安全基準※1に、2021年より転倒流水試験（転倒した際のお湯の流出量が50mL以下であること）が追加された」ことを知っている人は23.7%のみ。

「電気ケトルの新安全基準に、2021年より転倒流水試験（転倒した際のお湯の流出量が50mL以下であること）が追加された」ことを知っている人は**23.7%**にとどまりました。 ※1 J60335-2-15(2021)

Q.電気ケトルの新安全基準に、2021年より、
転倒流水試験が追加されたことを知っていますか。

(n=638/単一回答)

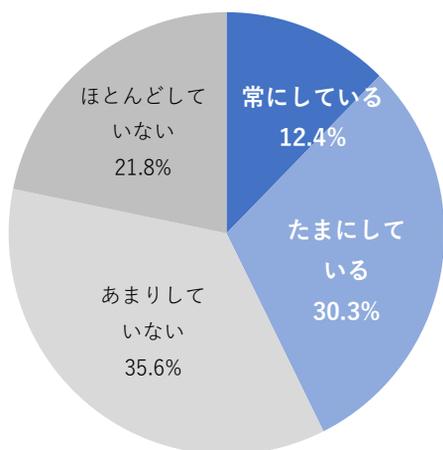


子どものやけど事故に至る危険性について情報収集している人、電気ケトルのやけど事故の報道・ニュース等を知っている人はいずれも4割程度にとどまる結果となった。

・子どものやけどや事故に至る危険性について情報収集している人は**42.7%**で、電気ケトルのやけど事故の報道・ニュース等を知っている人も**43.0%**。いずれも**4割程度**にとどまる結果となりました。

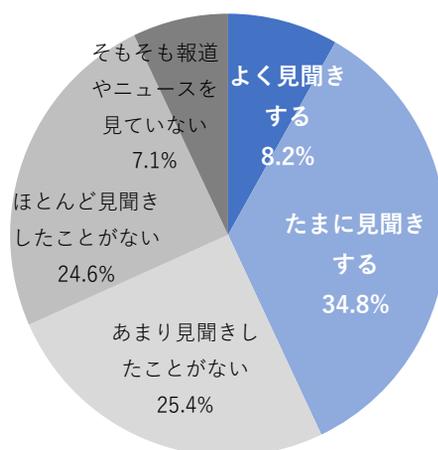
Q.お子様のやけど事故に至る危険性について、
情報収集をしていますか。

(n=638/単一回答)



Q.電気ケトルのやけど事故について報道・ニュース等を見聞きしたことはありますか。

(n=638/単一回答)



・子どもの事故防止の第一人者/小児科医の緑園こどもクリニック院長山中龍宏医師からのコメント
～安全対策の施された電気ケトルの使用を推奨。決まった場所に電気ケトルを置かない場合は特に要注意～

・1歳前後の乳幼児の3人に1人はやけどの経験があり、電気ケトルで重度のやけどを負うケースも多発
生後10か月から1歳半の間に、乳幼児の3人に1人はやけどの経験があると言われています。電気ケトルによる重度のやけどを負うケースも多発しています。過去の事例では、子どもがハイハイしていて電気ケトルにぶつかり、漏れ出た熱湯で重度のやけどを負ったケースもあります。

・「電気ケトルの決まった置き場所がない」人は特に要注意。その理由は、意識せずに子どもの手の届く場所に置いてしまうため

電気ケトルでやけどする危険性が高まる要因の一つは「電気ケトルの決まった置き場所がない」ことです。電気ケトルは手軽に“どこにでも”置くことができます。電気ケトルの決まった置き場所がない人は、意識せずに、子どもの手の届く場所に置いてしまいやすくなります。そのふとした瞬間に、子どもが誤って倒れてしまいやけどをするケースが多発しています。

普段から、電気ケトルの定位置を決めて、使用時にも“定位置以外の場所には絶対に置かない”癖をつけることが大切です。

・実験の結果、電気ケトルが倒れて“わずか5秒”で、入院が必要となるやけどを負う可能性も

電気ケトルによるやけど事故が多発したことを受け、「乳幼児がぶつかる力」を計る実験と「電気ケトルの転倒」実験を行ったことがあります。その結果、ハイハイする10か月児が電気ケトルに接触する際にかかる力は、133ニュートン（13kg）であることがわかりました。そして、各社の電気ケトルに133ニュートンの力をかける実験を行った結果、すべての電気ケトルが転倒し、お湯の注ぎ口が大きなタイプでは、わずか5秒で入院が必要（=体表の10%以上やけど）になるほどお湯が広がる結果となりました。

この結果からも、万一の転倒に備えて「転倒お湯もれ防止機能」が搭載されている電気ケトルを使っていた方が良いと考えています。

・電気ケトルは乳幼児の力でも簡単に転倒。何年にもわたって治療が必要となるケースも

お湯が入っている量が少ないと電気ケトルは軽くなり、乳幼児の力でも簡単に倒れてしまいます。すぐに熱湯が沸くので、保護者がちょっと離れた隙に、子どもが電気ケトルに触れたり、倒したりしてやけどをしてしまいます。

やけどを負うと、本人は、何度も植皮手術を受けねばならないなど、何年にもわたって治療が必要となり、多額の医療費がかかります。時には、指が十分に伸びないなどの機能障害が残ってしまい、傷痕は消えません。保護者は、傷痕を見るたびに負い目を感じ、心を痛めることとなります。

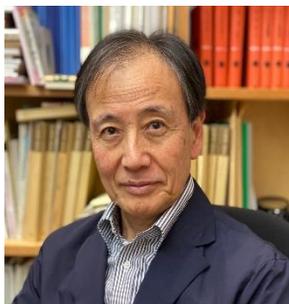
・子どもたちが大やけどしないために、親御さんには安全対策の施された電気ケトルを使用してほしい

私自身これまで、国レベルで、“お湯もれ防止機能を規格化すべき”だと指摘し続けてきました。今回の新安全基準の改正はまさに私が長年望んできたことです。

今回の新安全基準の改正の通り「倒れてもこぼれにくい」ものや、「蒸気レス」等の安全対策の施された電気ケトルを使用すれば、やけどの頻度や重傷度を軽減することができると考えています。

電気ケトルの熱湯で子どもが大やけどをするのを防ぐため、どうか親御さんには、安全対策の施された電気ケトルを使用いただけることを願っています。

・子どもの事故防止の第一人者/小児科医の緑園こどもクリニック院長山中龍宏医師 プロフィール



山中 龍宏（やまなか・たつひろ）

1974年東京大学医学部卒。1987年医学博士。

1987年東京大学医学部小児科講師、1989年焼津市立総合病院小児科科長、

1995年こどもの城小児保健部長を経て、1999年より緑園こどもクリニック(横浜市)院長。

1985年、プール排水口に吸い込まれた中学2年女児を看取ったことから事故予防に取り組み始めた。

現在、NPO法人Safe Kids Japan理事長、こども家庭庁 教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議委員、文部科学省 学校安全の推進に関する有識者会議委員、国民生活センター商品テスト分析・評価委員会委員、日本スポーツ振興センター 学校等における事故防止調査研究委員会委員。

・ 2008年以降、累計販売台数「約850万台※1」のタイガー魔法瓶の電気ケトルの特長
～発売当時から、「転倒お湯もれ防止※2」機能を搭載するなど、安心安全設計にこだわり～

■お湯もれを最小限におさえる「転倒お湯もれ防止※2」 **全タイガーケトル対応**

万一倒れた場合でもお湯もれを最小限におさえます。お湯もれによるやけどのおそれを少なくします。
※1 2008年9月～2024年5月までの国内累計出荷台数
※2 給湯ロックボタンがロック状態になっていても、本体を傾けたり倒すと注ぎ口などからお湯が流れてやけどのおそれがあります。

■蒸気が出ない「蒸気レス※3」 **PTQ-A100 PCK-A081 PCK-T060 PCJ-A082/A102**

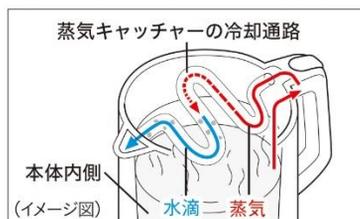
2つのタイガー独自技術「①スピード蒸気検知」「②蒸気キャッチャー構造」により、蒸気を外に出しません※3。

※3 本体が温かいときに湯わかしをすると注ぎ口から蒸気が出る場合があります。

①スピード蒸気検知

蒸気の出始めを素早くキャッチするため、余計な蒸気が発生しません。

②蒸気キャッチャー構造



ふた内部に「蒸気キャッチャー」を搭載。蒸気は蒸気キャッチャー内の冷却通路を通して冷やされ水滴となって、注ぐときに注ぎ口から出ます。

■おすすめ電気ケトル

蒸気レス電気ケトル（温度調節機能つき）PTQ-A100



充実の機能とデザイン性を兼ね備えたタイガー電気ケトルの最高峰。カップ1杯分約45秒の業界最速※4沸とう。

蒸気レス電気ケトル PCK-A081



安全設計と使いやすさを兼ね備え、こだわりの空間にもなじむモノトーンのマットな質感と端正なフォルム。カップ1杯分約45秒の業界最速※4沸とう。

※4 2024年6月13日現在家庭用電気ケトルにおいて水温・室温23度、定格消費電力にてカップ1杯分約140mLにおいて通電自動オフするまでの沸とう時間（自社測定法 PTQ-A型はダイヤル100設定時）。

タイガー電気ケトル 製品一覧Webページ <https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/product/list/electric-kettles/>